

妖精王国の滅亡

闇色の魔王は倒れました。

けれど、黒色の妖精はちっとも幸せになりませんでした。

身体に染み付いた黒い色は闇が去っても抜けなかったのです。

黒は闇に近い不吉な色なので、黒色の妖精は誰からも好かれていませんでした。

黒色の妖精は他の誰もやりたがらない事を、自分がやろうと思いました。

そうすれば他の妖精たちから認めてもらえると思ったのです。

黒色の妖精は、闇の塔の跡地を綺麗な庭園にしようと思いました。

しかし、一人っきりでやるにはその仕事はとても大変でした。

主を失った闇の塔はすっかり荒れ果ててしまっていて、所々、崩れているところもありました。

そして、黒色の妖精が瓦礫の下敷きになってしまった時に誰も気づきませんでした

かわいそうに黒色の妖精はそのまま死んでしまいました。

その身体は闇の塔に溶けるようになりました。

妖精たちが気がついた時には、既に遅かったのです。

まず、異変に気がついたのは灯火の妖精でした。

闇の塔を訪れた妖精はそこで信じられないものを見ました。そこにいたのは闇の騎士でした。

蘇った闇の騎士は、灯火の妖精に問いました。

「我が主はどこだ」

答える事ができなかった灯火の妖精は闇の騎士に殺されてしまいました。

闇の騎士は妖精王国をめぐる妖精たちを殺して回りました。

闇の騎士はどの妖精にも「我が主はどこだ」と聞いて回りましたが、

誰一人として答える事はできませんでした。

妖精たちは闇の騎士の前にはなすすべがありませんでした。

闇の騎士は闇色の魔王とは違って、妖精王国を闇に染めようとはしませんでした。

月すらも闇を恐れて姿を隠したその夜に、闇の騎士は闇の軍勢を集めて全てを破壊しつくしました。

五人の英雄の名を呼ぶものはたくさんいましたが、五人の英雄はあられませんでした。

そして、結局最後まで、黒色の妖精の名が呼ばれる事はありませんでした。

また、闇色の魔王のことも誰も答える事はできませんでした。

妖精王国はここに滅亡したのです。

なにもかもおしまい。